

おはなしトレイン

なつのワクワク号

暑い夏がやってきました！ お子さまと一緒に 図書館で 涼しいひとときをお過ごしください。

0歳から 5歳までの みなさんに おすすめの本を選びました。

0～2歳
イチオシ！

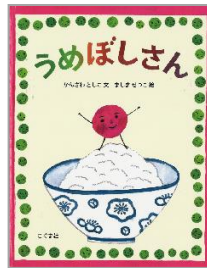


ディック・ブルーナ/ぶん・え
まつおかきょうこ/やく
福音館書店

『どうぶつ』

さる、ペンギン、カンガルー……たくさんのどうぶつが次々に登場します。シンプルにデフォルメされたかわいらしい絵は、きっとどこかで見たことがあるはず。はっきりとした黒い線と厳選された色づかいで、小さなあかちゃんから楽しめます。くまの次は…あれ?! 今年の2月に89歳で亡くなったディック・ブルーナが生んだ数ある名作のうちの一冊です。

3～4歳
イチオシ！



かんざわとしこ/文
ましませつこ/絵
こぐま社

『うめぼしさん』

日本人の食に欠かせない梅干し。その梅干しができるまでを、わらべうた風のことばでやさしく描いています。また、和紙を使った挿絵は季節感がたっぷりで、リズムカルな言葉の味わいをさらに深めています。梅干しの魅力を知ることができ、日本の文化の奥深さも感じられる一冊です。梅干しをほおぼりながら、ぜひ声に出して読んでみてください。

4～5歳
イチオシ！

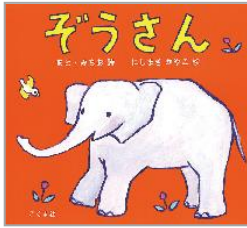


エリザベス・ロバーツ/さく
灰鳥かり/やく 殿内真帆/え
福音館書店

『とけいの あおくん』

あおくんは、お店に並んでいる、青い小さいめざまし時計です。長いことお気に入りのベルをならす機会もなく、毎日退屈していました。そんなある日、男の子がパパへの贈り物に、あおくんを選んでいきます。あおくんは新しい家がとても気に入りましたが、朝が近づくとだんだん心配に…。あおくんのドキドキわくわくが伝わってくるようです。

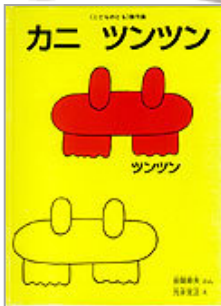
0～2歳



まど・みちお/詩
にしきかやこ/絵
こぐま社

『ぞうさん』

ぞうさん、だれもが知っている童謡に、シンプルで美しい絵がつけました。あかちゃんを膝にのせてあやしなから、または向き合っ顔を見ながら、語りかけてもいいですし、歌ってあげてもいいでしょう。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そしてあかちゃんに興味津々のお兄ちゃんやお姉ちゃん。ご家族のどなたでも、やさしい気持ちで読んであげられる絵本です。



金関寿夫/ぶん
元永定正/え
福音館書店

『カニ ツンツン』

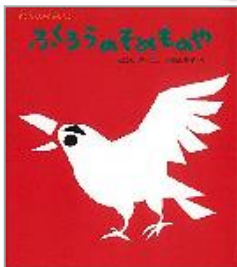
この絵本は、声に出して読むことでおもしろさが倍増します。「カニ ツンツン ビイ ツンツン」。これは、アイヌの人々の聞き取りによる鳥のさえずり。すでに存在していることばと、作者が創作したことばが組み合わせられ、新しい響きが生まれます。元永さんの描く鮮やかな色合いのふしぎな絵と、この響きがマッチし、あかちゃんに大人気の一冊です。



及川賢治/作
竹内繭子/作
文溪堂

『まる さんかく ぞう』

まる、さんかく、しかく…ではなく、ぞう。ぞうやぼうし、バスなどのいろいろな絵と図形が、たてに並べて3つ描かれています。カラフルな絵と斬新な構成がおしゃれな、一風変わったあかちゃん絵本です。繰り返しと言葉のリズムが、なんともいえない楽しい気分させてくれますよ。ぜひ声に出して読んでみてくださいね。



松谷みよ子/ぶん
和歌山静子/え
童心社

『ふくろうのそめものや』

題名はふくろうなのに、表紙の絵はからす？ そう、むかしむかし、からすの体がまっしろだったころのおはなしです。布や紙を用いた切り絵は、イラストとはまたひと味違った趣があります。馴染みのないことばも出てきますが、それは、むかしばなしの深い味わいのひとつ。美しい日本語をお楽しみください。はじめて出会うむかしばなしにぴったりです。





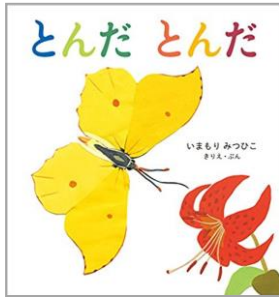
3～4歳



えがしらみちこ/作
小学館

『いろいろおてがみ』

おてがみが大好きなはなちゃん。ポストをのぞくと「いろいろ」なおてがみが届いています。もらったおてがみをよく見ると、差出人のヒントがあちらこちらに！ ポストをのぼる尺とり虫の動きにも注目。発見がたくさんの絵本です。乳幼児の大好きなくり返しと、水彩画のあたたかさが心地よく、読み終えると、だれかにおてがみを書きたくなるかもしれませんね。



いまもりみつひこ/きりえ・ぶん
福音館書店

『とんだ とんだ』

写真家でありペーパーカットアーティストでもある、今森光彦氏による幼児向け絵本。色彩豊かなチョウたちの飛び立ち羽ばたく姿が、切り絵で美しく表現されています。それぞれの飛び方を異なる擬音で表した文章も、耳にやさしく響きます。巻末では、出てくるチョウの名前も確認できますよ。あなたが見たことのあるチョウは、いるかな？



マージョリー・フラック/さく・え
瀬田貞二/やく
福音館書店

『アンガスとあひる』

アンガスは、知りたがりやの子犬です。ソファの下には何がいるだろうとか、鏡にうつる子犬は誰だろうとか、知りたいことがたくさんあります。特に知りたいのは、生垣の向こうから聞こえてくる「ガー、ガー、ゲーク、ガー」という音の正体。ある日、それを確かめに生垣をくぐるのですが…。好奇心いっぱいの、アンガスの冒険を楽しんでください。



きしだえりこ/さく
やまわきゆりこ/え
福音館書店

『ねこどけい』

ことちゃんの家にはおもちゃのハトが飛び出す“はとどけい”があります。ネコのねねこは、はとどけいのハトと友だちになりたいと思っていました。ねねこは一緒に遊ぶためにハトを待っていましたが、時計からハトが出てくると、ついついハトのあたまをたたいてしまいます。たたかれたハトは時計にひっこんでしまい…。ねねこはハトと一緒に遊ぶことができるのでしょうか？





イギリス民話 瀬田貞二/再話
和田義三/画
福音館書店

『いたずらおばけ』

ある晩のこと、ひとり暮らしをしているおばあさんが、小屋に帰る途中、大きな壺を見つけました。持ち帰ろうとしたおばあさんは、ショールの端に壺をゆわえて歩き出します。すると、おばあさんが疲れて休むたびに不思議なことが起こるのです…。思いがけない出来事さえ楽しんでしまうおばあさんの朗らかさが、楽しく幸せな気分をもたらしてくれます。



佐々木マキ/文・写真
福音館書店

『まちには いろんな かおが いて』

表紙の写真、じっと見ているとなんだか顔に見えてきませんか？本を開いてみると、あれ、これはマンホール？家の壁？はたまた手すりの金具まで、みんな顔に見えてきた！笑っている顔に困り顔、ぼかんとした顔など、まちで見つけたユーモラスな「顔」を集めた写真絵本です。読んだ後は、いつもの見慣れたまちへ「顔」を見つけに出かけましょう！



菊池日出夫/さく
福音館書店

『さんねんごい』

「さかな すくいに いかっちょ」。ひでは張り切っています。雨の降った次の日は、鯉が出ているかもしれません。川で魚を捕り、畑で野菜をもぎ、おおはしゃぎ。ところがおじさんに見つかって今度は大目玉！セミの声や川の音、じりじりした太陽の音まで聞こえてきそうな迫力のある絵は、何度見ても見飽きません。山あいにある村の、何でもないけど特別な夏の日。



東君平/作・絵
あかね書房

『どれみふぁけろけろ』

たっくんは泳ぎが苦手で、学校のプールの日はいつも元気がありません。スイスイ泳ぐかえるを見て、「ほくもかえるになりたいなあ」とつぶやくと、それを聞いたかえるの先生は、たっくんをかえる学校の生徒にしてしまいました。たっくんは子がえるたちと一緒に、かえるの勉強を始めますが…。苦手なことに対する不安な気持ちにそっと寄りそうおはなしです。

